

# 熊野川緊急対策特定区間の 実施状況について

---

近畿地方整備局

紀南河川国道事務所

# 熊野川改修事業(緊急対策特定区間) 事業工程

○平成29年度からは、熊野川のさらなる治水安全度の向上と浸水被害の軽減を図るため、「緊急対策特定区間」を設定し、概ね5年間で重点的に河道掘削等を実施します。

○それにより、熊野川水位の影響を受ける相野谷川において浸水被害の軽減を図ります。

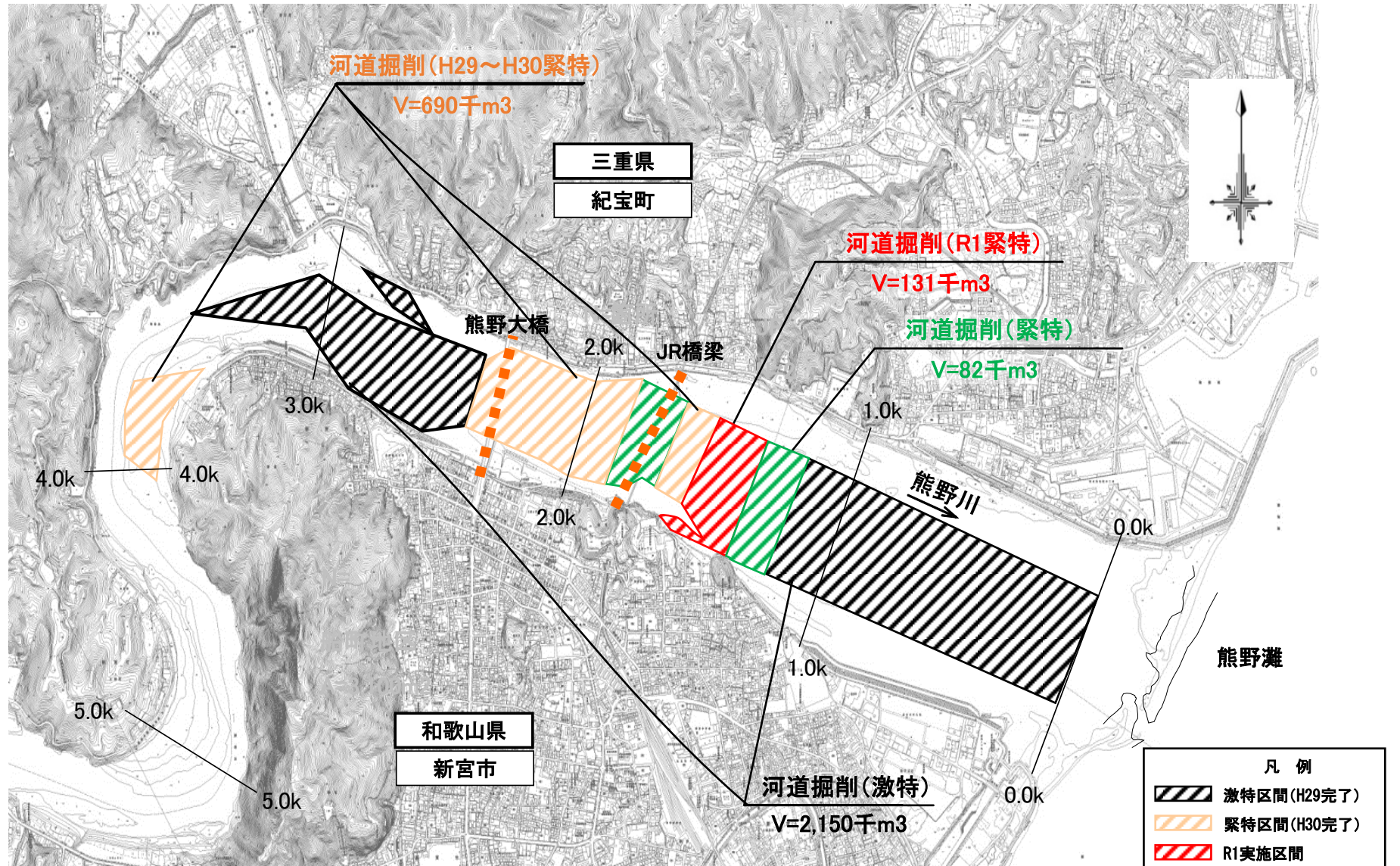
## 事業内容(熊野川)



緊特工程表

	数量	H29	H30	H31	H32	H33
河道掘削	約90万m <sup>3</sup>					
JR橋脚補強	1式					

# 熊野川河道掘削実施状況



※予算ベース

# 掘削土砂の有効活用（七里御浜【井田地区】海岸侵食対策）

○河道掘削において発生した土砂は、ふるい分け後に七里御浜(井田地区海岸)の三重県の海岸侵食対策に活用しています。(平成31年4月末時点の搬出量:約70万m<sup>3</sup>)

海岸侵食対策前



海岸侵食対策状況



# 掘削土砂の有効活用（王子製紙跡地（津波避難地））

○新宮市による津波避難地整備を連携して実施。避難地の基盤整備に河道掘削土砂を活用しました。  
(搬出量:約2万m<sup>3</sup>)

整備前



整備後



# 掘削土砂の有効活用（成川津波避難地）

○<sup>きぼう</sup>紀宝町による津波避難地整備を連携して実施。避難地の基盤整備に河道掘削土砂を活用しました。  
(搬出量:約5万m<sup>3</sup>)



整備前



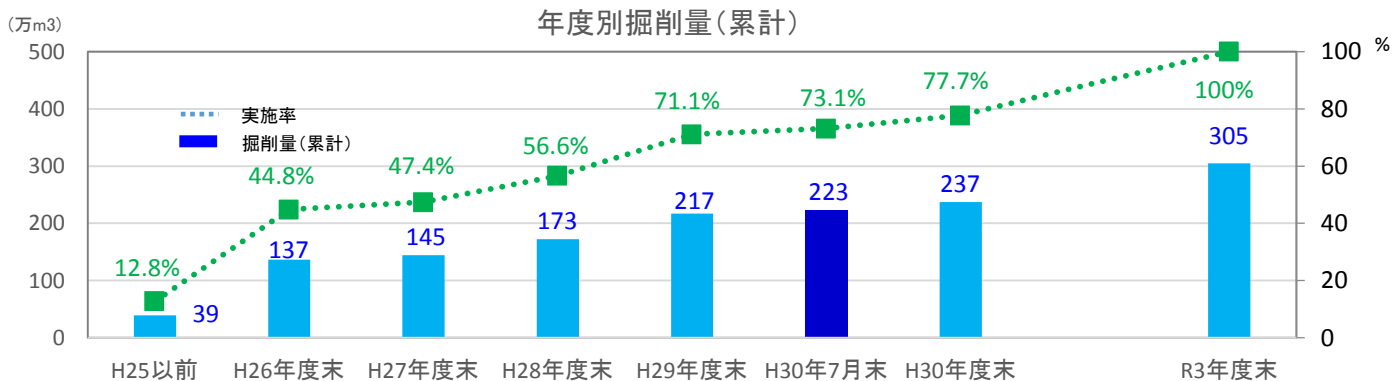
整備後



# 河川整備による事業効果(平成30年8月の台風20号に対して河川整備が効果を発揮)

○平成30年8月の台風20号洪水(約12,800m<sup>3</sup>/規模)では、熊野川本川の水位を約1m低下させ、計画高水位にせまる洪水を安全に流下。

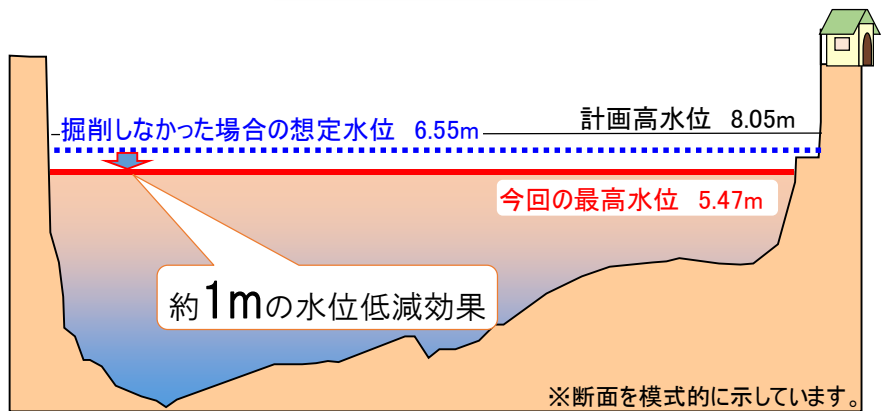
○支川相野谷川の水位を約1m低下させ、輪中堤からの越水を回避しました。



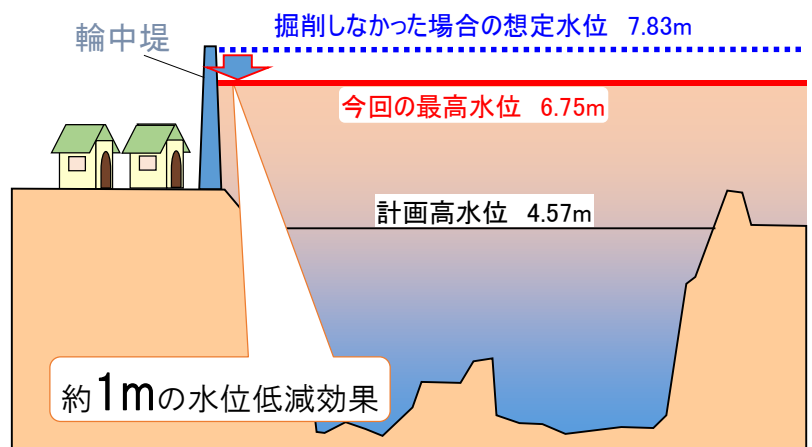
平成30年8月  
台風20号  
流量：約12,800m<sup>3</sup>/s※  
※流量は速報・推定値

## H30年7月末時点の事業効果

### 熊野川:成川地点

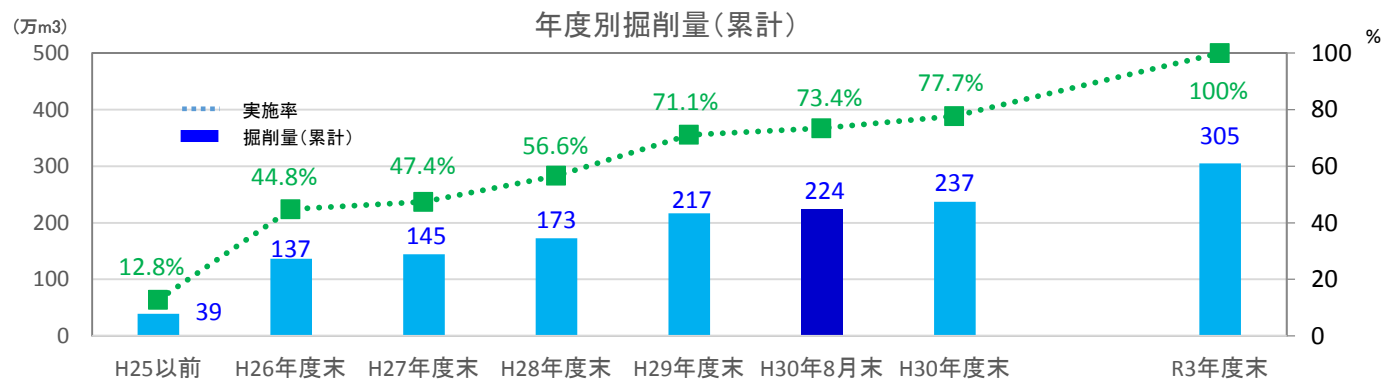


### 相野谷川:高岡地点



# 河川整備による事業効果(平成30年9月の台風24号に対して河川整備が効果を発揮)

- 平成30年9月の台風24号洪水(約8,200m<sup>3</sup>/規模)では、熊野川本川の水位を約1m低下させ、計画高水位にせまる洪水を安全に流下。
- 支川相野谷川の水位を約1m低下させ、輪中堤からの越水を回避しました。



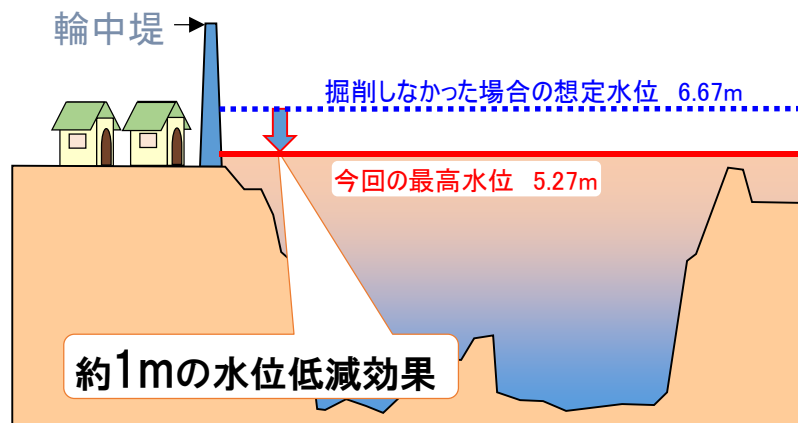
平成30年9月  
台風24号  
流量：約8,200m<sup>3</sup>/s※  
※流量は速報・推定値

## H30年8月末時点の事業効果

### 熊野川:成川地点



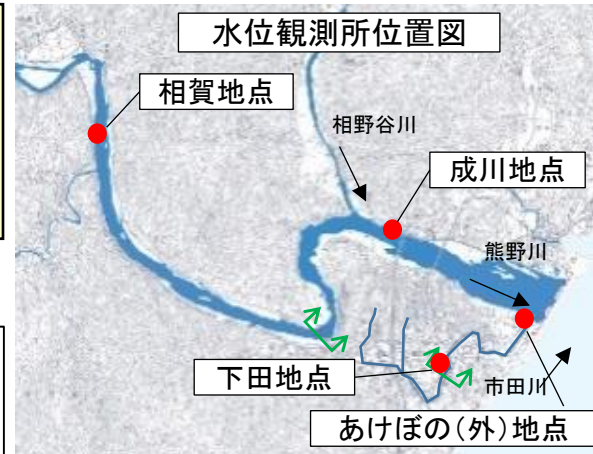
### 相野谷川:高岡地点



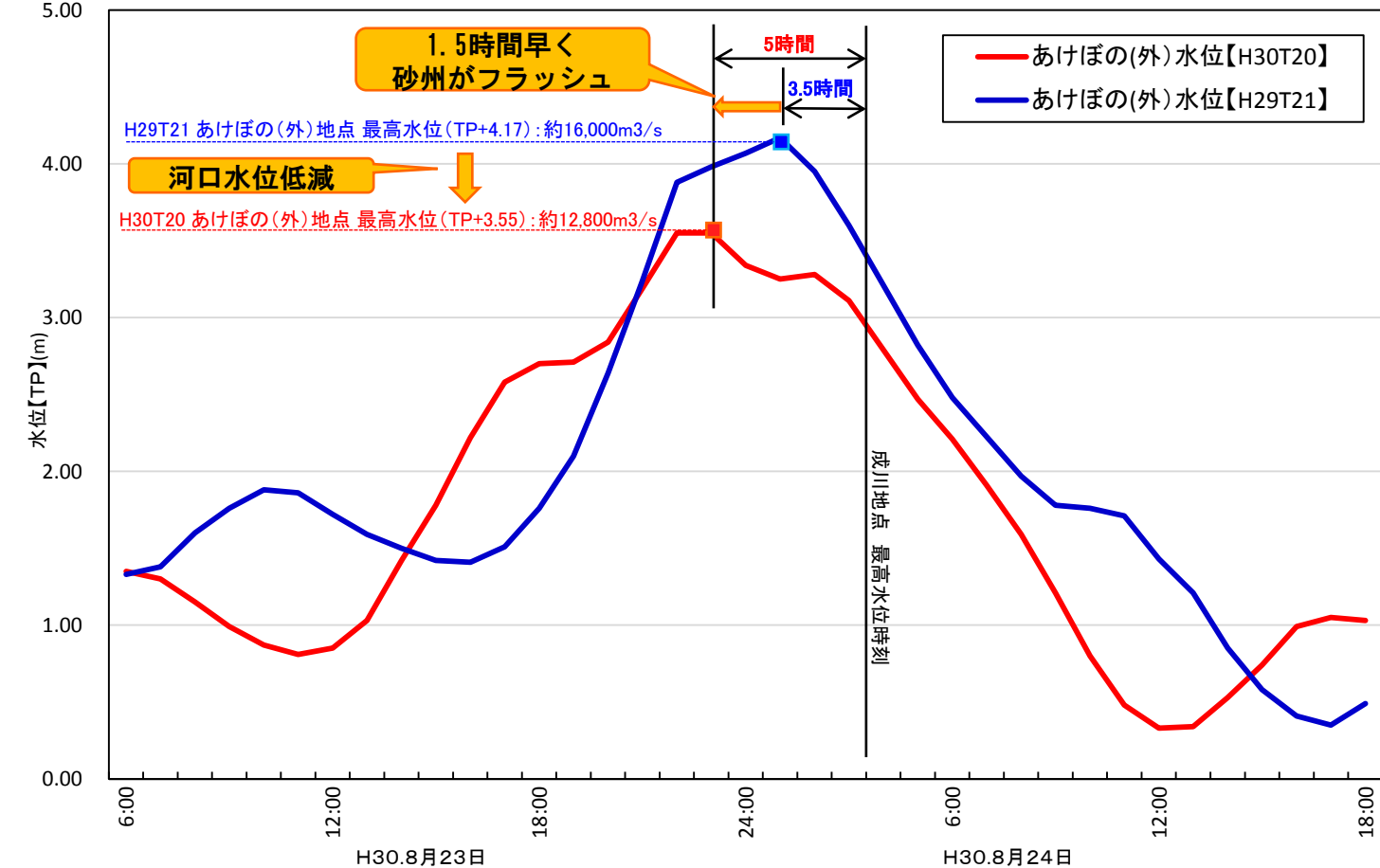


# 砂州掘削による事業効果(平成30年8月の台風20号に対して砂州掘削が効果を発揮)

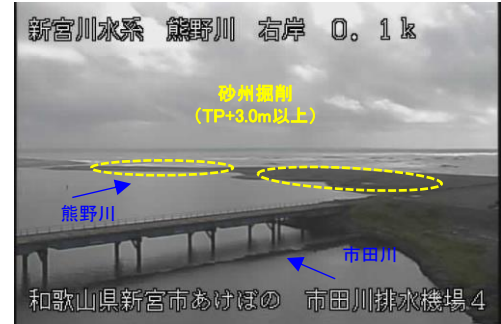
- 平成30年に河口部砂州掘削(砂州一部を切り下げ)を実施。
- 平成29年台風21号時より、少ない流量で**1.5時間早く砂州がフラッシュ**した。
- フラッシュ時の河口部水位はTP.3.55mまで低減した。
- 砂州がフラッシュしたため、**市田川の水位も低下**したと考えられる。



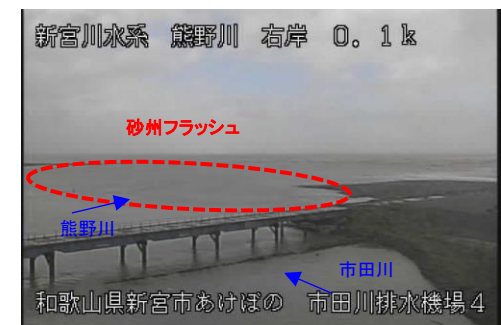
## 平成30年台風20号、平成29年台風21号 水位比較 (あけぼの(外) 地点)



## 掘削前後及びフラッシュ後比較



砂州掘削後 [8/22 8:50]  
(本川T.P.+0.8m)



フラッシュ後 [8/24 15:20]  
(本川T.P.+0.83m)

※平成29年台風21号のあけぼの(外)水位時刻は、当該出水時の成川水位観測所のピーク水位時刻を、平成30年台風20号時の成川水位観測所のピーク水位時刻と同期し、補正したものを。